

SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

アサザ

【英名】 water fringe

【学名】 *Nymphoides peltata*

多年生の浮葉植物で、水底を這う茎からスイレンに似た円形の葉が伸び、水面を覆います。かつては、全国の湖沼やため池などの水辺に広く分布し、身近な水草として日本人に親しまれてきました。古い資料では、万葉集に、「あざさ」という名で登場し、花が愛しい恋人の髪飾りに使われている情景がよまれています。アサザの花は直径3cmほどで、縁に細かい切れ込みが入った黄色い花弁が、目に鮮やかです。朝開いた花は夕方にはしぼんでしましますが、群生した株から次々に花が咲き、水上にぼつぼつと浮かぶ様子は風情があります。「水辺の自然」エリアの「ため池」水槽で、初夏から秋口まで長く楽しむことができます。

(教育普及係 高濱 由美子)



CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- 学校で習ったはずなのに意外と知らない!? メダカのはなし
- 東京では絶滅した淡水魚、ゼニタナゴ展示の取り組み

なぎさNEWS

- 「西なぎさ」をもっと知るために
- なぎさで探そう! こんな生き物「タカノケフサイソガニ」

水族園のもう一つの顔

- 特設展示「暗間で出会う生き物たち Encounters in the dark」を開催

TSLP LATEST

Vol.20 No.3 2022

JUNE

通巻

104

SEA LIFE TOPICS

学校で習ったはずなのに意外と知らない!?

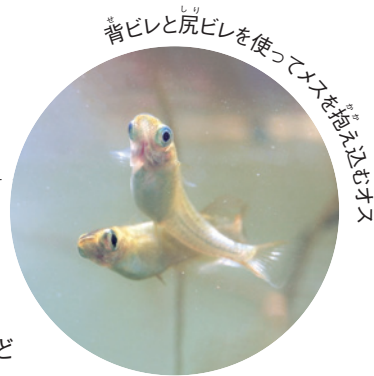
メダカのはなし

水族園では、「水辺の自然」エリアの「田んぼ」や「ため池」水槽、「水辺の生き物」水槽で、ミナメダカを展示しています。これまで「メダカ」は1種だとされていましたが、最近の研究で「ミナメダカ」と「キタノメダカ」の2種に分けられました。どちらのメダカも、水深が浅い場所での生活に適した体をしています。高い位置にある眼は陸上の外敵を見つけやすく、突き出た下あごは水面付近のミジンコなどを食べるのに役立ちます。小学校の教科書には、オスはメスに比べて大きな尻ビレをもち、オスの背ビレには切れ目があるというように、オスとメスの見分け方が載っています。ですが、この外見に違いがある理由を知っていますか？これには、繁殖方法が関わっています。メスのお腹が大きくなると、オスはヒレを広げながらメスの周りを泳ぎアピールをします。求愛が成功すると、オスは大きな尻ビレと切れ目のある背ビレでメスを抱えて産卵を促す

のです。メスは受精卵をお腹につけ、しばらくすると水草などに産みつけます。4月ごろから「ため池」水槽で、卵をお腹につけたメスを見かけるようになりました。卵は水温にもよりますが10日ほどでふ化します。この記事が出るころには、少し成長した稚魚の姿を見られるかもしれません。

ミナメダカもキタノメダカも、かつては田んぼや小川などでよく見ることができました。しかし、田んぼの管理方法の変化や小川の整備による生息地の減少、外来種の移入などによって数が減り、絶滅の危機に瀕しています。都立動物園・水族園では、東京に昔からすんでいるミナメダカを“東京めだか”とよび、展示を行いながら保全にも取り組んでいます。

(飼育展示係 森田 夕貴)



これから水草や水底に卵を産みつける



繁殖期には腹ビレが黒くなる

東京では絶滅した淡水魚、ゼニタナゴ展示の取り組み

東京では絶滅した淡水魚のゼニタナゴを「水辺の自然」エリアの「ため池」水槽で展示しています。タナゴのなかまは、生きた二枚貝に産卵するという、特殊な繁殖生態をもっています。水族園では2013年から茨城県霞ヶ浦産のゼニタナゴとドブガイなどの二枚貝をバックヤードで飼育し、繁殖に取り組んできました。

2018年に、多数のゼニタナゴの産卵・育成に成功し、「ため池」水槽でゼニタナゴの展示を始めました。

しかし、臆病な性質のため水槽のすみに隠れがちであることや、冬の低水温期にはじっとしてあまり泳がないため、姿が見えないこともあり、屋外展示のため、コサギやアオ

サギといった魚をねらう鳥が飛来することも、隠れて出てこない原因の一つとして考えられました。

しばらく展示を中止していましたが、今年の初め、水槽上部に鳥の侵入を防ぐロープを設置してから、ゼニタナゴ約20匹を再び展示しました。そして、隠れていてもゼニタナゴが観察できるよう、水槽内の中央に流木で隠れ家をつくり、ゼニタナゴが移動してくるか試してみました。初めは水槽のすみに隠れていたゼニタナゴも、数日たつと1匹2匹と新たな隠れ家の中に入りだし、1か月ほどで全ての個体が流木の下に移動してきました。暖かくなってからは、流木から出て群れで泳ぐゼニタナゴを観察することができます。

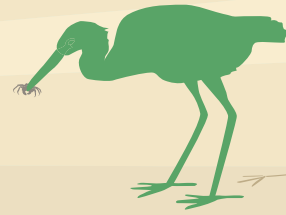
次の目標は、ゼニタナゴの産卵行動を観察できるようにすることです。現在「ため池」水槽にはゼニタナゴが産卵に利用するドブガイも展示しています。秋の産卵期が近づくとオスの体にあられる婚姻色や、メスが貝に卵を産みつける様子が観察できるよう、ゼニタナゴが安心できる環境づくりに取り組みます。

(飼育展示係 宮崎 寧子)

うろこが細かく、独特の光沢があるゼニタナゴ



なぎさ NEWS



「西なぎさ」をもっと知るために

水族園では「西なぎさ」で定期的に調査を行い、生き物の季節的な違いや数年単位でみた干潟環境の長期的な変化を皆さんに紹介しています。その調査の一つが、本誌でも紹介してきた「生き物調査」です。生き物調査は「西なぎさ」を歩きながら生き物を探し、砂や泥の中の小さな生き物から飛来する鳥まで、見つけた生き物は何でも記録してきました。

2021年度からは「西なぎさ」の特徴をさらに把握することや、他の地域の干潟の特徴と比較ができる調査方法に変更し、「底生生物調査」と名前を変えました。この調査では、砂地2か所と泥地2か所の調査エリアを設け、各調査エリアで5m四方の範囲を4区画定めます。そして、それぞれの区画でランダムに10回地面を掘り返し生き物を調べます。一年間で33種がみられ、注目すべき種のひとつにクボミテッポウエビがありました。瀬戸内海や日本海南部などでみられる種ですが、東京湾では2007年に初めて確認されました。水温の上昇や人為的な移入が、その原因として考えられています。クボミテッポウエビに限らずこのような変化を把握するためにも調査を継続し、しっかりと記録に残していくことが大事だと考えています。

(教育普及係 市川 啓介)



干潟に線を引き、調査区画を設定



クボミテッポウエビ。3月に2個体確認された

なぎさで探そう！ こんな生き物

見つけやすさ ★★★★★

サイズ 甲幅3cm

見つけるコツ

岩をひっくり返したり、岩のすきまをのぞいたりしてみよう。じっとかくれているところを見つけられるかも。岩にはカキがついていることがあるから、殻で手を切ってしまうように手袋をするといいよ。あと、岩はいろんな生き物のすみかだから、ひっくりかえしたらもとにもどしてね。

タカノケフサイソガニ (モクズガニ科)

■タカノケフサイソガニはこんなカニ

体はぺちゃんこで岩のすきまなどにかくれるのにぴったり。せなかの色やもようも岩にているよ。おなかを見るとオスとメスのちがいが分かる。「フンドシ」が、細長いのがオス、丸いのがメス。大人のオスのハサミは大きくて、つけねにフサフサした毛が生えている。だからタカノ「ケフサ」イソガニ。春から夏には、おなかにたまごをかかえたメスを見ることができるかも。(教育普及係 田中 隼人)



「こんなふうにかくれているよ」

メス
(実物大)

オス
(実物大)



水族園 のもう一つの顔

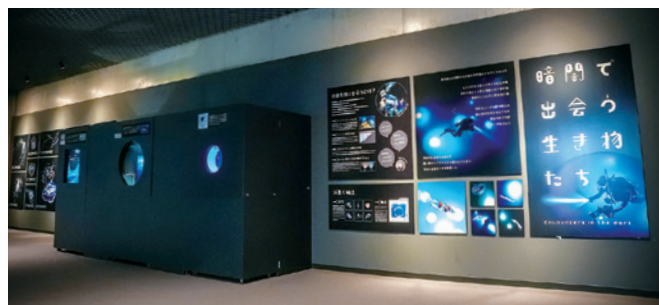
特設展示 「暗闇で出会う生き物たち Encounters in the dark」を開催

2022年3月から期間限定で、特設展示「暗闇で出会う生き物たち Encounters in the dark」を開催しました。闇夜の海中に強力なライトを設置し、光で浮遊生物を集めるライトトラップという採集・観察方法に注目した展示で、30年にわたりこの方法に取り組む水中写真家阿部秀樹さんの協力のもと、その手法と出会える生き物たちを紹介しました。

敵に見つかりにくい透明な体をした浮遊生物は、昼間は水中に姿がとけこんでしまい、なかなか見つけれられません。しかし、ライトトラップを使うと、光に集まる生き物はもちろん、そうでない生き物も光を横切るときに透明な体がはっきりと照らし出されるため、見つけやすくなるのです。また、海中で見つけた浮遊生物を1個体ずつ丁寧に水ごと採集できるので、良い状態で採集することが難しかった傷つきやすい浮遊生物の採集と展示が可能になりました。

ライトトラップで採集される浮遊生物のなかでも、魚類や無脊椎動物の浮遊幼生にはユニークな姿形をしたものが多いです。例えば、アサヒガニのなかまの浮遊幼生（ゾエア幼生）は、発達した長い棘をもっています。これによって、体の表面積が増え、少ないエネルギーで効率的に浮遊することができると考えられています。

ここでは、浮遊幼生の段階で採集・展示をして成体まで育て



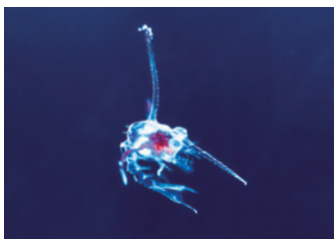
パネルと生体展示で「暗闇で出会う生き物たち」を紹介

ることができたミズヒキガニのなかまを紹介しします。ミズヒキガニは主に深海に生息しているカニで、細く長い4番目の脚を上げている姿が贈り物の包紙を結ぶ水引に似ていることからこの名前が付けられました。展示開始時はメガロバ幼生という成長段階で、浮遊生活に適応した脚をつかって泳ぎ回っていましたが、しばらくすると何度か脱皮を繰り返し、1か月後には、すっかり成体と同じ姿に変わりました。浮遊生物は生態が詳しく分かっていないものが多く、一連の姿や生活の変化はとても興味深いものでした。今後さまざまな方法で浮遊生物の魅力を紹介したいと思います。

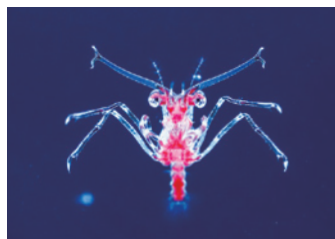
（飼育展示係 松村 哲・遠藤 周太）



明るい光で生き物を集める



アサヒガニのなかまのゾエア幼生



ミズヒキガニのなかまのメガロバ幼生



稚ガニになったミズヒキガニのなかま

TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 3/25 「カナダ西岸」水槽でクチバシカジカの繁殖個体を展示
- 4/6 「大洋の航海者 マグロ」水槽でマイワシを展示
- 4/6 「浮遊生物 5」水槽でカミクラゲを展示
- 4/17 「水族園スタッフにぎいてみた！飼育の日2022」をYouTubeで公開
- 4/22 「渚の生物」・「東京湾 アマモ場」水槽でアマクサアメフラシを展示
- 4/22 「海藻の林」水槽にジャイアントケルプを搬入
- 4/27 「葛西の海 2」水槽で稚アユを展示
- 4/29-5/8 までのGW 期間中、整理券による入場制限を実施
- 5/4 「暗闇で出会う生き物たち」でウチワエビ（フィロソマ幼生）を展示
- 5/4 「カナダ西岸」水槽でセイルフィンズカルピンの繁殖個体を展示
- 5/11 オウサマペンギンとミナミイワトビペンギンをバックヤードに移動
- 5/18 「水辺の自然」エリアの「田んぼ」で田植えを実施



TOKYO
SEA LIFE
PARK

編集後記

今号は「水辺の自然」エリアで見られる生き物を特集しました。屋外のエリアで帰り道にあるので見過ごされやすいですが、都会ではいなくなってしまった生き物やどこか懐かしい風景を見られるおすすめの場所です。晴れた日に水の流れる音を聞きながら水辺を歩くのも気持ちがいいですが、私はしとしとと雨が降っているときに散歩するのも好きです。（田中）

SEA LIFE NEWS 通巻 104

Vol.20 No.3 2022 JUNE 6月1日発行（次号は2022年8月発行予定）

編集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/
発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル 7 階
TEL.03-3828-2143

